

令和元年度 第2回北秋田市総合教育会議 会議録

1. 開催期日 令和元年11月28日(木)
2. 開催場所 北秋田市民ふれあいプラザ コムコム 大研修室
3. 開会及び閉会 開会：午後1時30分 閉会：午後3時26分
4. 出席者 北秋田市長 津谷 永光
＜北秋田市教育委員会＞
教育長 佐藤 昭洋
委 員 佐藤 正俊
委 員 佐藤 英樹
委 員 蒔苗 隆
委 員 藤本 基子
5. 欠席委員 なし
6. 出席職員 ＜教育委員会事務局＞
教育次長 小笠原 吉明
総務課長 金田 浩樹
学校教育課長 小林 秀雄
生涯学習課長 長岐 孝生
スポーツ振興課長 藤野 義則
総務課総務係長(書記) 三澤 照美
7. 案 件 (1) 令和元年度主要教育施策の実施状況(上半期)及び
令和元年度における教育に関する重点施策について
(2) 意見交換

8. 会議録

小笠原教育次長	ただいまから、令和元年度第2回北秋田市総合教育会議を開催いたします。 はじめに、津谷市長から御挨拶をお願いします。
津谷市長	一言御挨拶申し上げます。 教育委員の皆様には、大変お忙しい中にもかかわらず、今年度2回目になります北秋田市総合教育会議に御出席いただき誠にありがとうございました。 また、北秋田市の教育行政全般に渡り、御協力と御尽力いただいておりますことに、この場をお借りいたしまして心から感謝申し上げます。 今年5月に第1回の総合教育会議が開催されましたが、委員の皆様方から活発な御意見、御提言をいただき、令和時代の教育施策につきましてよいスタートを切らせていただいたと思っているところです。 さて、御案内のとおり、今年7月には伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、昨年に引き続き国内推薦候補として選定されております。いよいよ2021年の世界文化遺産登録を視野に捉えることができましたので、地域の皆様、そして関係機関と連携を深めながら機運醸成を図ってまいりたいと考えております。 また、日本遺産認定を目指している当市の貴重な文化であります「阿仁マタギ」については、今年の認定は残念ながら見送られましたが、引き続き、認定に向けた取組を推進していきたいと考えております。 教育交流として、7月に友好交流都市協定を締結しております国立市の校長等8名が当市を訪れ、学校現場を視察し、教職員と意見交換を行っております。8月にはマタギの地恵体験学習会に国立市から親子22名が参加するなど教育分野においても国立市との積極的な交流が図られております。 先般、国立市で平和市長会議が開催されました時には、国立市長から、参加した子どもたちを含む保護者の方々から、北秋田市を見て勉強になったし喜ばれたとのお話をいただきました。国立市との様々な交流を通じて、お互いの連携を深めていきたいと考えております。 本日の会議は、今年度の各種事業の進捗状況の説明と来年度の重点施策が議題の中心となりますが、委員の皆様からの忌憚のない御意見をいただきながら、当市の教育行政の充実に結び付けてまいりたいと考えております。 本日はどうぞよろしくお願いいたします。
小笠原教育次長	ありがとうございました。 続きまして、佐藤教育長より御挨拶をお願いします。
佐藤教育長	皆様、こんにちは。

佐藤教育長	第2回の総合教育会議の前に、私から1回目以降の主な動きについて報告いたします。若干、市長の仰ったことと重なることもございますが紹介したいと思います。詳細については、会議の中で各課長から報告いたします。 総務課関係ですが、特筆すべき取組としてあきたリフレッシュ学園事業についてお話しします。今年度の利用者数は16人（11月27日現在）。その内市内の児童生徒は8人が利用しております。この内6人が学校に登校できており、これまでの成果と捉えております。今年度の視察については、友好交流都市協定を結んでいる東京都国立市の教育委員会や校長、保護者の計18名を始め、八郎潟町民生児童委員、福島県教育庁義務教育課主任指導主事や指導主事、文部科学省の職員も会員となっている全国規模の組織である教育長・校長プラットフォーム、明日予定されている長野県平谷村教育委員会関係者など、これまで6団体で48名があきたリフレッシュ学園を訪れております。県教委と連携して4年目となる教育留学推進事業については、長期留学に10名の児童・生徒が参加しており、内1名は合川中学校に籍を移しての留学となっております。 学校教育課関係では、4月18日に実施された全国学力・学習状況調査は、小学校6年生、中学校3年生とも概ね良好な状況でございました。今年度も県外からの教育視察を受け入れており、タイ王国や国立市など4団体45名の教育関係者が市内の小・中学校を訪問し、子どもたちが授業に臨む姿や授業の進め方を見て、その質の高さに感心しておりました。 生涯学習課では、各事業が順調に実施されておりますが、今年度の特筆すべき取組は、マタギの地恵体験学習会です。これまで実施してきた本市の生徒に加えて、夏の短期チャレンジ留学と、国立市との交流も合わせて行いました。39名の児童・生徒と国立市の保護者11名の合わせて50名が参加して行われ、北秋田市の農村で命をいただくというテーマで、きりたんぼ作りや四季美湖でのカヌー体験などたくさんの自然体験のほか、植樹の体験も行いました。7月30日国の審議会において、伊勢堂岱遺跡を含む北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群が、昨年に引き続き世界文化遺産登録に向けた推薦候補に選ばれ、世界文化遺産登録に向けて一歩前進しました。令和3年世界文化遺産に登録されるよう市民の気運を高めるとともに、関係遺跡や関係団体と連携しながら取組を進めてまいります。 スポーツ振興課での特筆すべき事業として、名門実業団チームの三井住友海上女子陸上部が、北欧の杜公園を中心としたスポーツ合宿を実施したことから市体育協会や陸上競技協会と連携して、元オリンピックマラソン選手の土佐礼子氏による講演会と実技指導教室を実現できました。本市の陸上競技を行っている小・中学生、高校生にも効果的な指導をしていただきました。 結びとなりますが、教育委員会では未来を担う児童・生徒の育成、市民の皆さんの生きがいつくりの生涯学習や生涯スポーツ、競技スポーツへの取組など広い視点で事業を展開しております。今後も私たちの取組が人づくり、地域づ
-------	---

佐藤教育長	ぐりに一層効果的に働くよう取り組んでまいります。
小笠原教育次長	ありがとうございました。 それでは早速、案件に入らせていただきます。 「北秋田市総合教育会議運営要綱」により、議長は市長が行うことになっておりますので、津谷市長に案件の進行をお願いしたいと思います。 津谷市長よろしくお願いします。
津谷市長	暫時議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。 それでは案件に入らせていただきます。案件（１）令和元年度主要教育施策の実施状況と令和２年度における教育に関する重点施策について、事務局から説明をお願いします。
金田総務課長	< 案件（１）説明 >
津谷市長	それでは、資料に沿って、各担当課長から教育大綱区分と重点目標ごとに説明をお願いしたいと思います。では、学校教育編からお願いします。
小林学校教育課長	< 学校教育編 説明 > 一部、金田総務課長説明
津谷市長	ありがとうございました。ただ今説明のありました学校教育編につきまして、御意見や御質問があれば伺いたいと思います。
佐藤正俊委員	今日、会議に来る前に合川小学校の「樺細工とてふてふ展示会」を見学させていただきました。とてもすばらしく、もっと広く見てほしいと感じました。 その中に、学校見学、授業参観もできます、と書かれていました。学校開放という点や、地域が協力して子どもたちにいろいろな物を見せることは、学習に大きく繋がることではないかと深く感じました。展示されていた物も工夫されていて温かさがありました。 最初は樺細工だけの展示と考えていたそうですが、蝶の研究をしている方から標本を借り受けたのは合川公民館長のアイディアだそうです。子どもたちは来た人方とふれあいながら、よい状況で学校生活を送れるのではないかと感じました。ぜひ他の小・中学校でもやってもらえたらと思いますが、合川地区は、中心に幼・小・中・公民館が一箇所にまとまっていて、連携し合っていることに感心しました。
津谷市長	ほかにございますか。
藤本委員	A L T のことについてですけれども、小学校３年生の息子は、ジュン先生の

藤本委員	スリーヒントクイズがとっても楽しいと言って、毎回外国語活動の時間を楽しみにしています。 また、授業以外でも中学校のランチタイムやティータイム、学校祭では吹奏楽をバックにデュエットしてくれたり、英語の部屋には外国の雑誌や海外でしか手に入らないような物を置いてくれたりして、子どもたちとの交流を大切にしてくださっていると感じています。 きっと、コーディネーターの方が活躍されて、よい学校との関係を作ってくださっているのだと感じています。ありがとうございます。
津谷市長	ほかにございますか。 なければ、意見交換の時にも発言していただけますので、次に生涯学習編の説明に移らせていただきます。生涯学習課長から説明をお願いします。
長岐生涯学習課長	< 生涯学習編 説明 >
津谷市長	ありがとうございました。 生涯学習編に御意見や御質問はございませんか。
藤本委員	10年位前に森吉公民館に勤めていた時に、日本語教室があって、国外からお嫁さんで来た方々の言葉や生活面を、ベテランの先生が教えてくださる教室と覚えています。今も同じなのか、もし同じであれば、その時と同じ考えで必要なのか。また、変わったところがあったら教えてください。
長岐生涯学習課長	現在、講師は3人いて、年40回位開催しています。登録は21名おりますが、受講者は固定してきています。異文化の生活を理解するという意味も込めて、料理などで交流したり、普段の生活の支援として細かいところに踏み込んで行われています。
藤本委員	そういう方々の交流の場になっているということですね。
津谷市長	ほかにございませんか。
蒔苗委員	国立市との文化交流事業として、マタギの地恵体験学習は大変よかったと思います。こういう体験するという場合には、規模をどの程度までにするか、毎年同じテーマで行うのか、どう考えていますか。
長岐生涯学習課長	マタギの地恵体験は何回か行っておりまして、昨年の国立市との友好交流都市協定によって、今年は国立市との交流事業として行いました。さらに、今年は短期チャレンジ留学の17名も含んで行っています。終了後の振り返りの実

長岐生涯学習課長	行委員会で指導者からは、今回の５０名という人数は多かったという意見が出ました。３０名程であれば、一人一人が体験できて、交流できる規模ではないかということで、来年度は進めたいと考えています。 また、国立市の保護者の方も参加して、大人の方が理解が深いという意見も出ていましたが、来年は一度、国立市と北秋田市の子どもたちだけで実施しようかと計画しています。内容は、同じ人が来るとも限りませんので、メニューは同じですが、夏休みに限らず冬休みでもよいのではという意見も出されました。来年度早めに実行委員会を立ち上げて検討していきたいと思っています。
佐藤正俊委員	マタギの地恵体験は、生涯学習課で以前から行っていた事業ですが、もう一つ学童研修センターでは、夏休みに短期チャレンジ留学Ⅰ、冬休みに短期チャレンジ留学Ⅱを行っていた訳ですが、今回は国立市・チャレンジⅠ・マタギの地恵体験の子どもたちと、国立市の保護者が加わったので大変な人数になった訳です。 ただ、保護者が入るということは、私も関わっていたのでとても緊張しました。皆でしっかり話し合いながら進めた事業でした。保護者は、感心はしていますが、ただ見ているだけしかありません。子ども中心なので、役割分担が決まっていれば親子で関わっていけたかと思いますが、そこは難しいと感じました。 これから、教育委員会と県の主催で短期チャレンジⅡが予定されています。それは、申込み開始と同時にすぐにいっぱいになってしまい、キャンセル待ちも既に締め切りました。教育委員会が東京駅まで迎えに行って子どもを預かり、送って行って保護者の元にお返しする責任がありますので、指導の先生方は気を付けながら進めているところです。
蒔苗委員	あまり規模が大きくなると、ボーイスカウトのジャンボリーのようになるのかと思いましたので。ありがとうございました。
津谷市長	ほかに何かございますか。
藤本委員	放課後児童クラブは、子どもたちの安全のために指導員の方が心を配ってくださってありがとうございます。 その中で、今年度、お世話になっている児童クラブで、ルールを守らない子どもたちがとても多くて、このままだと利用できなくなることをお願いするかもしれないというようなお手紙をいただきました。上の子ども含めて何年か利用していますが、指導員の方に注意されて、おうちの方にお話ししていただいている中で、おうちの方が、自分の子どもが外でそんなことをしているなんて信じられないと言っているんですね。それを聞いて、自分の子どもの時とは逆で、家では良い子で外では羽目を外すという、そういうしつけの難しさを感じ

藤本委員	ています。児童クラブでそのような振る舞いをするなんて考えてもみなかったと仰るお母さんが実際にいますので、親としてしつけについて考えさせられると思ったところです。
津谷市長	分かりました。これに対しては何かありますか。
長岐生涯学習課長	子どもたちも、集団になると気持ちが大きくなって、行動に出たりするのかと分析しています。指導員には、その都度指導してほしいと話しています。人数が多いので、そういうケースも出てくるのかと思います。
佐藤英樹委員	高校生が関わっている生涯学習奨励員と、高校生協働地域活性化事業は1回しか実施していないということですが、どんな仕事をして、どこを目指しているのか教えてください。
長岐生涯学習課長	活性化事業につきましては、それぞれが街づくりに参画したいということで、高校生が行きたくなるような街のお店を探してマップを作ったというのが一つ。ほかに、家庭科クラブが縄文館のお土産に取り組んでいます。また、浜辺の歌音楽館でクリスマスコンサートが12月14日に行われますが、ウェイティングカフェで高校生が来場者におもてなしをする予定です。 生涯学習奨励員については、高校生の授業との関係でまだ参加に至ってはおりませんが、12月15日の生涯学習フェスタには参加していただいて、地域との関わりや、どういうことをやっているのかを感じてほしいと考えています。
佐藤英樹委員	分かりました。生涯学習課からは、北鷹高校にお願いがよくきていましたが、直前のためお断りしたことが何度かあったと思います。計画があったら前もって早めに伝えて、一人でも多く参加できるような仕組みを作してほしいと思います。参加した高校生は、地域では高い評価を得てがんばっているようですので、今後ともお願いしたいと思います。
津谷市長	ありがとうございました。 今年、北鷹高校生の研究で、市で行っている事業について担当課から学んで、それをまとめて発表するということでしたので、市との繋がりが大変深くなりました。
佐藤英樹委員	先日校長にお会いしたら、市長にも講演していただいて大変ありがたかったと話していました。やはり、市とのパイプを太くして、高校生を育てていただきたいという思いもあるようですので、今後もよろしくお願いします。

佐藤教育長	生涯学習課関係で、今年の大きな取組の一つはマタギの地恵体験ですが、少し違う視点では、国立市との交流の中で、産業部と連携して北秋田市の山に植樹をしてもらったことは今までにない取組で、教育委員会と市長部局が協働して一つの事業を行いました。横の連携をしていきたいと常日頃思っていましたので、今後も幅広く、深くやっていければと思っていますのでよろしくお願いします。
津谷市長	それでは、次にスポーツ振興編に移りたいと思います。スポーツ振興課長から説明をお願いします。
藤野スポーツ振興課長	＜ スポーツ振興編 説明 ＞
津谷市長	ただ今説明のありましたスポーツ振興編について、御意見、御質問はございませんか。
佐藤英樹委員	スポーツ振興については、全国の地方主要都市でも、医療費削減のためにスポーツを活用していかにつけていくのかというのは、スポーツ振興課のみならず、他の部署との連携を図る必要があるかと思っています。特に、高齢率が高い北秋田市では、健康な高齢者づくりに力を入れていただきたいと思っています。 二点目は、県体協の会議に出ますと、北秋田市のチャレンジデーの参加率より、県の平均の方が高くなっています。この指標が市のスポーツ人口を測る尺度になると思いますので、ぜひ数値を上げる努力をしてほしいというのが私の意見です。
藤野スポーツ振興課長	チャレンジデーについては、全県の参加率を若干下回っています。集計の仕方が各市町村まちまちでよく分からない状況です。また、買い物ウォークなどもスポーツとして組み入れるべきかどうかなど線引きがないため、どう取り入れて集計に算入させるかが課題です。今年は農作業をしている人など、報告し忘れたという声を多く聞いたので、行政税協力員や自治会の会長など役員の方に、声をかけてもらうような仕組みを作っていきたいと考えています。
佐藤英樹委員	報告はFAXと電話だけですか。
藤野スポーツ振興課長	今年は新たにQRコードを導入したら、結構利用されました。QRコードは有効でしたが、今年から事前報告は禁止になりましたので、対策を講じていかなくてはならないと感じています。
佐藤正俊委員	アイディアですが、自治会の活動の一つとしてやらない限り、これは難しいと感じます。自治会は班別になっているので、班長が聞いて回って集計して報

佐藤正俊委員	告してもらうのがいいのではないかと思います。 もう一点、別のことですが、三井住友海上陸上部の合宿はよかったと思います。これが宣伝となっていていろいろな団体が来るようになればよいと思いました。北秋田市の環境はすばらしいと思いますから、宣伝の仕方次第だし、成果も上げていますから外に発信していくことも大切だと思います。 それらから、100キロマラソンですが、阿仁、森吉、合川、鷹巣と縦断していく行事はあまりありませんし、地域の人たちが楽しみにして、迎え入れる環境も自主的に整えようと努力していますので、ぜひ続けてほしいと思います。ただ、今年は事故がありましたので、万全の対策をしていかなければならないと思います。
津谷市長	事故に関しては、公道を使って走るため通行止めにはできなくて、マラソンが始まった当初から警察の厳しい指導がありました。今回の事故で、来年の開催に当たっては、警備について更に厳しい要望があると思います。
藤野スポーツ振興課長	大会が終わってからの会議では、公に応援できる場所を設けた方がいいのではないかという意見が出されました。来年は30年の記念大会になるので、実行委員会で併せて協議することになると思います。 チャレンジデーについては、4月に各自治会の役員の変更もあるので、総会の時に各自治会にお願いしたいと思っています。
津谷市長	チャレンジデーの周知には防災ラジオも使えます。 合宿については、佐藤委員からお話しがあったように空港も近いし、北欧の杜公園、中央公園、堤防も走ったそうだし、プールでクールダウンしたり、陸上競技場のブルートラックもすばらしいと言ってもらい実業団の合宿には向いていると思います。 また、消費の面から見ても、宿泊など需要が出てくるので生かしていきたいと思っています。
藤野スポーツ振興課長	できれば夏と冬の両方でできればいいと考えています。
佐藤正俊委員	北欧の杜公園のトレーラーハウスなども活用して、公園には涼しく走れる長いコースもありますのでぜひ利用してほしいと思います。
津谷市長	それでは（１）の案件につきましては、皆様の意見を来年度の重点施策にしっかり反映していただきますように、よろしくお願いします。 続いて（２）の意見交換に入らせていただきます。特にテーマを限定しないで、北秋田市の教育について御意見などがあればお伺いします。

佐藤英樹委員	教育委員を仰せつかって初めて、小・中学校訪問をさせていただき感じたことは、先生方はがんばっていますし、数値は学力調査などで分かるのですが、授業を見て指導に差がある学校がありましたので、その差をなくすことがこの市の教育の課題ではないかと感じました。 先程、学校教育編の時に発言するのをためらったのですが、校務支援システムは教員の多忙化解消のために導入したと思いますが、現場の声を聞くと、システムを使うために先生方が苦勞されていて、まだ軌道に乗っていないような意見も一つ二つあったように思いますので、研修なども設けて進めていくべきではないかと思いました。
津谷市長	せっかく効率を上げようとしているシステムだし、実際に効果は出ているのだと思いますが、仮に不備だと思われるところはメーカー側に現場の声を伝えておくと、メーカー側も改善すべき点が出てくると思うので、佐藤委員の話はそのとおりだと思います。
小林学校教育課長	校務支援システムについては、今年度は校務以外の時間が増えた、少し増えたというアンケートの結果の数値が72.92%まで上がっています。一年目と比べた時に、一年目は非常に忙しいという声の方が多くて、それはこれまでパソコンを使わずに校務をしていたのかということではなくて、自分で工夫をして使ってきました。それが、新しい校務支援システムが入ると、データを共有することや、クラウドでデータを安全にやりとりすることなど、一度入力したものをいろいろな帳票に出すなどする時に、字数などに一定の制限がかかる訳です。これまでは自分で工夫して、自分が書きたい文量が書けるように使ってきたものが、新しいシステムになったらそこまでの字数が打てないことに先生方はストレスを感じてしまった。全員が同じデータを共有して使うためには、一定の制約が必ず出てきます。その辺が先生方に浸透していない部分もあると思います。 本市で使用している校務支援システムは、全国でも使われているので、いろいろな県や市で使われていることによって、カスタマイズする部分については、まだこれから余地があると思います。ちょうど指導要録が変わりますので、カスタマイズについても学校の声を聞きながら、学校教育課の方で要望していきたいと考えています。 それから、学校によって指導に差があるというのは、確かにそうだと思いますが、差を減らしていく努力としては、今後研修の方法等を考えながらやっていかなければいけないと思います。来年になると本市の小・中学校で一つの学年に複数の学級がある学校は、鷹巣小学校と鷹巣中学校しかなくなります。小・中学校の場合は、同じ学年でやっている先生方同士の情報交換がやりやすく、中学校は同じ教科の先生方で話をして研修を深めていくのが一般的なのですが、一つの小学校に同じ教科、同じ学年を教えている人がいる学校は鷹巣小

小林学校教育課長	学校のみになります。初任者の増加に合わせた校内研修の在り方や、市の教育センターの授業研究会が唯一同じ学年の先生方が集まって研修する機会になっていくので、その辺の在り方といいますか、存在意識も上がってくるものと思っています。 中学校に関して言うと、5教科の先生も、一学年一クラスになってくると、以前は先輩の先生がいてお互い情報交換して研修を深めていくことができていたものが、専門教科についてはできないことになっていきますので大きな問題です。教科の専門性を研修の中で高めていくことと同時に、一般的な授業の在り方、指導技術などは他の教科の先生であっても共通ですので、校内研修の在り方についても考えていく必要があると感じています。
佐藤教育長	やはり授業を見ていると、一つの学校で授業の上手い先生と、もう少しという先生と一緒に見てしまうので比べてしまうけれども、当市の先生方の授業が全国標準と比べてどうなのかという、他県から来た人を見ると、どこの学校に行っても全員の授業について、すごいですねと評価されるところを見ると、授業の上手い先生はものすごくレベルの高い位置にあると思います。もう少しという先生も全国標準を上まわっている力だと思いますが、できるだけ上に近付くように、学校の工夫と教育委員会としてできる工夫を考えていきたいと思っています。
佐藤正俊委員	最近のニュースで心配な事があってお話しさせて下さい。北秋田市の子どもの不登校は少しずつ減っている事は確かです。さわやか教室、あきたリフレッシュ学園に来ている子どもたちはまずはよいとして、それ以外の子どもたちが心配です。先日、大阪市の小学生が栃木県で保護された事件がありました。家庭での居場所、学校での居場所がないのでSNSを使っているというようなニュースでした。私たちが見えないところでスマホを使っているいろいろな事が動いている、知らない人との繋がりが居場所のようになっている、北秋田市として、子どもたちの状況など学校の中で話し合ったことはあるものですか。
小林学校教育課長	SNSを使うことについて、学校ではかなり問題視しています。ただ、実態を正確に掴んでいるかというと、たぶん正確には掴めていない。 今年私が出た会議でいうと、阿仁地区が大阿仁小、阿仁合小、阿仁中の3校で学校保健委員会を開催しています。昨年も今年も議題は、ノーメディアデーあるいはメディアを制限する取組についてでした。学校保健委員会なので、養護教諭からの話になりますが、SNSを使ったり、あるいはテレビよりもユーチューブを見る子どもが多い。テレビを見るよりだったらユーチューブを見るという小学生もいて、特に阿仁地区は多い。目が悪くなることや、自分で生活の時間をコントロールできなくなっていることが問題になっています。ゲームについても、以前はカセットを購入して入れるスタイルだったものが、今はゲ

小林学校教育課長	ームを購入するのもオンラインで、そして自分でやるだけではなく対戦相手もオンラインで繋がっている、そういう時代になってきています。保健委員会の時に困ったと言っていたのは、オンラインなので相手の顔が見えないし、同じゲームを一緒にやっている時は、その人が同じ時間帯にゲームをしていないと続きができない。時間の感覚がだんだん薄れた結果、昼夜逆転して朝に起きられないことが出てきています。学校で仲のよい友だちがいないとか、友だちと遊ぶことができなくてネットを通じて友だちになったとすれば、その子にとっては大事な友だちになるかと思うのですが、その子と繋がるためにこの時間しかないとなると当然起きていることになって、昼夜逆転する子どもも出てきていることは確かです。 もう一つは、私も同感だと思ったのは、昔は学校を休めば暇でしょうがなかったものが、ネットで誰かと繋がると学校に行かなくても困らないし暇でもない、という状況がいくつか出ているようです。 そういう背景があるということも、考えていかなければならないと思います。対策としてこれがよいというものはないのですが、例えば鷹巣中学区は、鷹巣中が定期テストを行っている時は、鷹巣中に子どもが通っている小学校は全てノーメディアという取組を始めています。小・中が一緒に取り組めればよいと思いますが、正確な実態はというと掴めておりませんし、掴めるかも分かりません。現状をお話ししました。
佐藤正俊委員	大変危険な世の中になってきていると感じるので、気を引き締めて情報を得ながら私たちも取り組んでいかなければならないと思います。
津谷市長	ありがとうございました。それでは時間もだいぶ経過しましたので、意見交換を終わらせていただきます。最後は、非常に重い話でしたが、子どもたちが健全に育っていけるようによろしくお願い申し上げます。 ここで進行を事務局にお返しいたします。ありがとうございました。
小笠原教育次長	市長、進行ありがとうございました。 次第の５番その他に入ります。その他、事務局からは特別ございませんが、皆様の方から何かございますか。 ないようであれば、これをもちまして令和元年度第２回北秋田市総合教育会議を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。

(午後３時２６分 閉会)